

## 学校と教育2

### 教育における「個性」主義の問題-2

### 機会の平等について

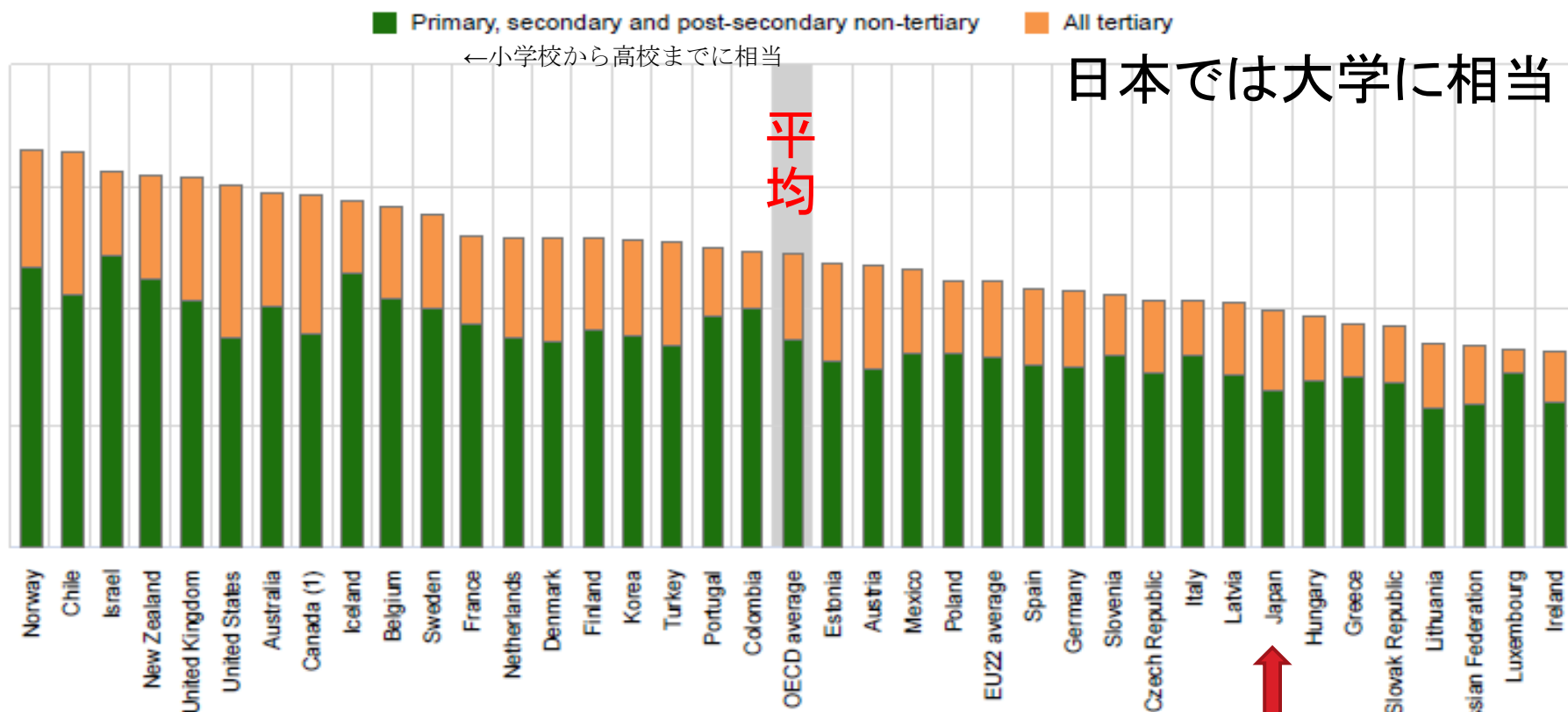
実態レベルでの「結果の不平等」を正当化する「機会の平等」について、数量データなどから、どれほど維持されているか確認する

# 表1 大学卒業までにかかる費用 (2008年度公表データより)

それぞれのケースで一番右の列の合計値で確認してください。

図1 Total expenditure on educational institutions as a percentage of GDP (2015)

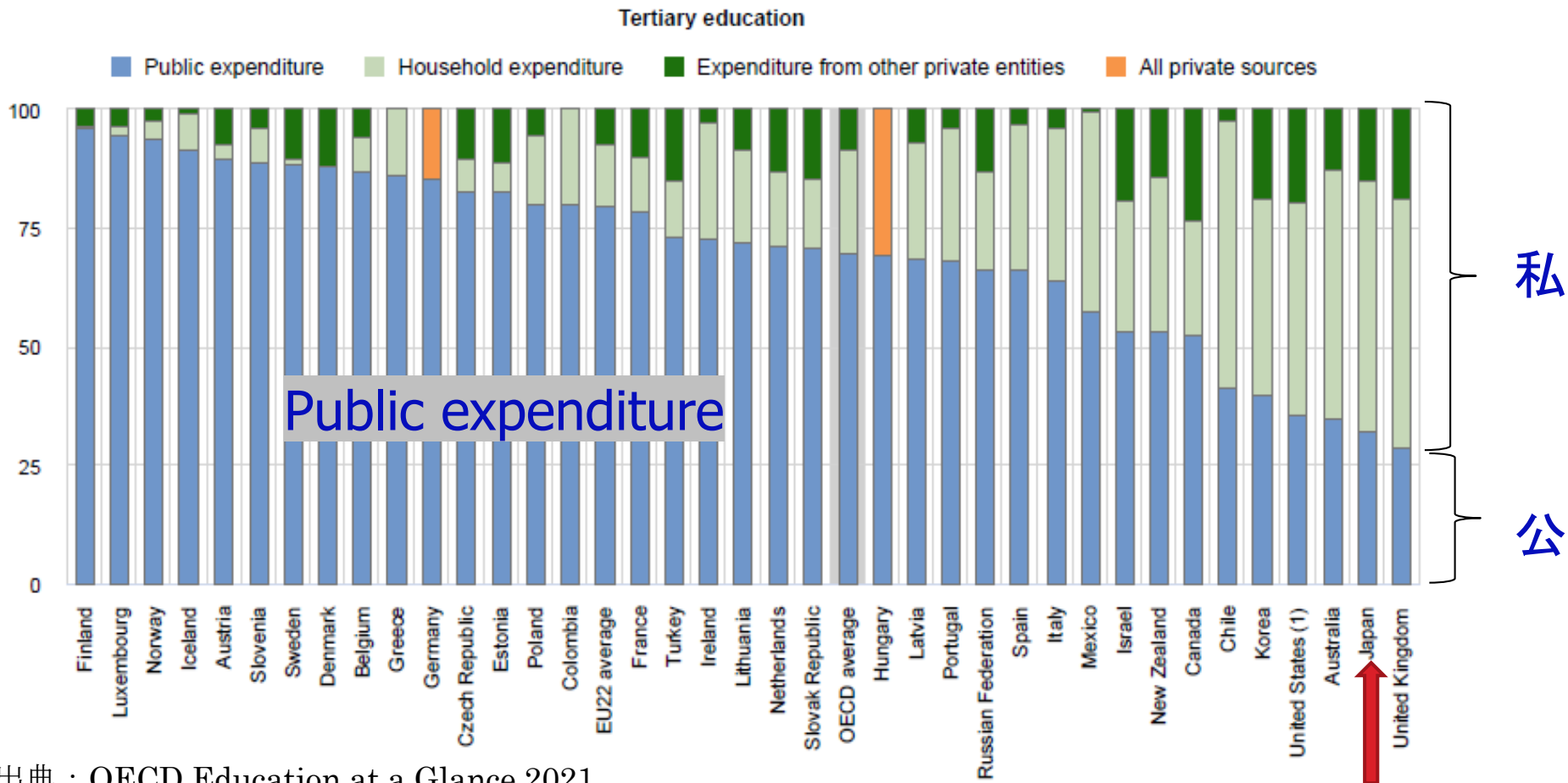
# GDPに占める教育制度への総支出%



日本は公費負担率が低い  
 = 教育に国はお金をかけていない

# 図2 Distribution of public and private expenditure on educational institutions

## 教育への公費・私費負担の割合



## 図2 Distribution of public and private expenditure on educational institutions

### 教育への公費・私費負担の割合

日本：教育への私費負担率が高い

→教育費を負担するのは、**子どもの親**

# 学力テスト:成績は保護者の年収や学歴も影響 文科省分析 毎日新聞 2014年

小学6年と中学3年を対象に昨年4月に実施した全国学力テストで、世帯収入や保護者の学歴が高いほど成績が良いことが文部科学省の分析で分かった。また、読書や新聞を読むことが学力向上に効果的であることも示された。家庭の状況に起因する子供の学力格差の存在は教育界では指摘されてきたが、全国規模の調査結果を基に数値として裏付けられたのは初めてという。

調査はお茶の水女子大(東京)に委託し、抽出校の保護者約4万人へのアンケートと学力テストの結果の関係を調べた。

家庭の年収では、小学6年の算数B(応用)で「200万円未満」の平均正答率が45.7%だったのに対し、「1500万円以上」は71.5%で約26ポイントの差があった。また、塾など学校外の教育費支出が高いほど学力も高い傾向だった。...

**子どもの成績を決定する要因として世帯年収が大きな意味をもつ**

# SES = Socio-Economic Status

## 社会経済的背景

表2 SES と学力 (2013 年度調査)

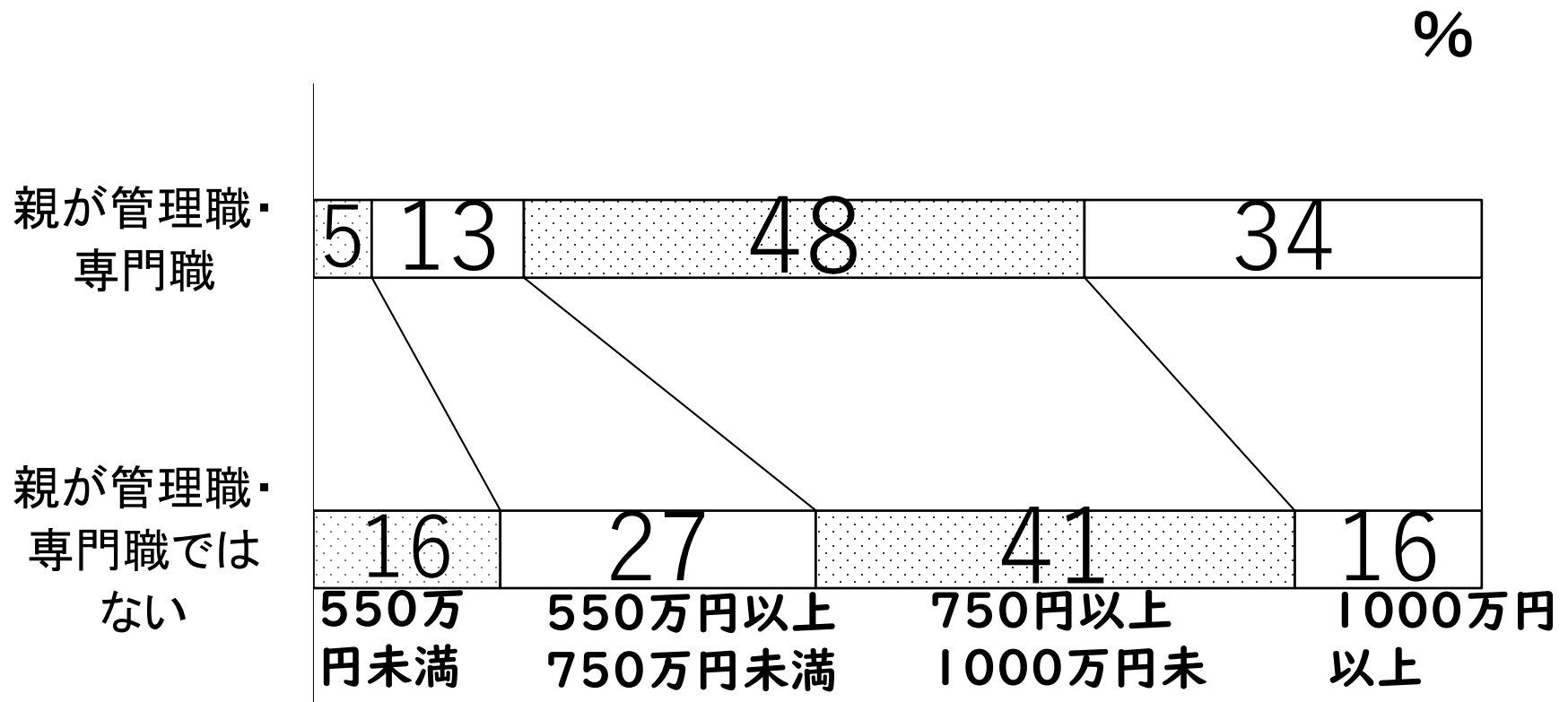
	小6				中3			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
低 Lowest	53.9	39.9	68.6	47.7	70.0	58.9	53.0	30.5
Lower middle	60.1	46.1	75.2	55.1	74.5	65.2	60.8	37.7
Upper middle	63.9	51.4	79.2	60.3	77.8	69.4	66.4	43.5
高 Highest	72.7	60.0	85.4	70.3	83.1	76.2	74.5	54.4

表3 SES と学力 (2017 年度調査)

	小6				中3			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
低 Lowest	68.0	48.4	69.7	36.3	70.4	63.1	52.8	38.8
Lower middle	72.7	54.5	76.2	42.3	75.6	70.0	61.5	44.9
Upper middle	76.6	59.7	81.0	47.7	78.9	74.3	67.4	49.7
高 Highest	82.0	67.4	87.6	57.7	84.8	81.4	77.1	58.9

# 図3 親の職業による年収格差

親が管理職・専門職だと年収が多くなる傾向  
＝親と子の社会的地位の流動性が低くなっていた



出典：佐藤俊樹「問われる『機会の均等』」朝日新聞2000.8.6



表2 学習意欲・学習行動・学力(文化的階層グループ別)

		小 学 校			中 学 校			
		上位	中位	下位	上位	中位	下位	
学習意欲	家庭での勉強の仕方	出された宿題はきちんとやる	93.2	90.5	82.2	71.7	67.2	56.9
		授業で習ったことについて自分で詳しく調べる	30.6	21.4	14.2	19.3	15.0	8.0
		嫌いな科目の勉強でも頑張ってやる	74.1	69.4	54.0	55.2	45.7	34.0
		家の人に言われなくても自分から進んで勉強する	60.3	53.1	41.5	42.9	32.1	24.5
	受けたい授業	教科書や黒板を使って先生が教えてくれる授業	83.2	76.9	67.7	83.5	79.3	71.0
		ドリルや小テストをする授業	57.9	48.1	35.6	47.6	39.4	31.1
		自分たちで調べる授業	57.6	43.0	32.6	52.9	45.3	32.1
		自分たちの考えを発表したり意見を言いあう授業	59.1	43.9	38.0	41.6	29.1	24.1
	成績観	勉強はおもしろい	55.9	39.8	33.2	35.3	25.1	15.8
		成績が下がっても気にならない	41.2	44.5	50.4	23.9	27.2	35.7
		勉強は将来役に立つ	86.2	78.3	69.7	77.1	62.3	57.0
		人よりいい成績をとりたいと思う	69.4	65.6	64.7	61.4	77.5	63.8
学習行動	家庭学習	「しない」	11.8	16.9	19.9	31.4	42.9	57.5
	読書(漫画・雑誌を除く)	「しない」	31.2	44.2	59.9	43.1	60.7	67.9
	勉強日数(週あたり)	「ほぼ毎日」+「週4,5日」する	65.3	65.0	58.2	36.7	28.6	18.4
		「ほとんどしない」	11.5	16.6	27.0	26.9	38.6	56.8
	家庭での学習時間(平均時間)		51.2分	30.0分	35.0分	30.0分	27.3分	20.7分
	読書時間(平均時間)		40.2分	25.8分	19.9分	36.8分	24.5分	19.2分
	学校の宿題(家庭での勉強内容)	「しない」	0.9	1.5	3.9	21.0	31.6	41.7
	学校の復習(家庭での勉強内容)	「しない」	36.2	45.1	59.3	46.7	57.8	70.0
	学校の予習(家庭での勉強内容)	「しない」	51.2	59.1	68.5	64.8	69.8	81.1
	「先生が黒板に書いたことはしっかりノートにとる」(授業中の態度)	「とても」	47.4	42.4	32.0	70.6	63.6	52.1
		「まあ」	43.8	46.0	48.7	23.4	28.9	35.4
		「とても」+「まあ」の合計	91.2	88.4	80.7	94.0	92.5	87.5
	「授業でわからないことを後で先生に質問する」(授業への取り組み)	「とても」	13.5	8.3	8.3	14.1	9.9	6.6
		「まあ」	28.5	26.4	19.9	26.6	21.4	20.8
		「とても」+「まあ」の合計	42.0	34.7	28.2	40.7	31.3	27.4
	「テストで間違えた問題はしっかりとやり直す」(授業への取り組み)	「とても」	38.5	30.6	27.9	13.9	8.7	5.4
「まあ」		35.0	35.6	34.7	31.1	26.1	18.6	
「とても」+「まあ」の合計		73.5	66.2	62.6	45.0	34.8	24.0	
学習の成果	学力テスト(2教科合計得点の平均点)	147点	145点	132点	140点	134点	117点	
	算数・数学のテスト(平均点)	76点	74点	67点	69点	65点	55点	
	国語のテスト(平均点)	72点	71点	65点	71点	69点	62点	

# 表2 学習意欲・学習行動・学力 文化的階層グループ別

📎 確認

一番下

「学習の成果」 学力テスト 文化的階層による差

上の段

「学習意欲」にも文化的階層によって差がある

1990年代においてすでに「学習の成果」だけでなく、「**学習意欲**」にも文化的階層によって差があった＝「希望格差社会」(山田昌弘)

## 表5 SESグループ×正答率・誤答率・無解答率

- 高グループ

正答率高い、無解答率低い

- 低グループ

正答率低い、無回答率高い



あきらめ、意欲の欠如が示唆される

# まとめ:「個性尊重」の教育の問題点

- ① 事実の検証抜き「個性」尊重  
「意識」を問題視し、「実態」としての  
「不平等」を考慮してこなかった

## ②階層間格差の隠蔽

学力の差＝個性とみなす

→学力差と社会階層の結びつきを  
切り離してしまう

学校教育は家庭環境の差という「**機会の不平等**」を解消しているとはいえない。  
むしろ、学力や意欲の点でさらに**格差**  
を**拡大**している傾向がみられる